

ゴジラVSキングギドラ (1991)

GODZILLA VS. KING GHIDRAH

メディア 映画
ジャンル 特撮 ファミリー
製作国 日本
色彩 Color
時間 102分
初公開日 1991/12/14

【解説】

1992年突然東京上空にUFOが飛来した。富士山麓に着地したUFOから姿をあらわしたのは、ウィルソン、グレンチコ、エミーという23世紀からやってきた3人の未来人だった。彼らは、23世紀がゴジラによって壊滅的な打撃を受けており、歴史上からゴジラを抹殺するためにやって来たのだ。太平洋戦争末期、ラゴス島に存在した恐竜ゴジラザウルスが放射能の影響でゴジラと変身したのではないかと考えていたルポライターの寺沢は、エミーたちのオブザーバーとして選ばれ、共に過去へ旅立つ。推測した通り、日本軍の生き残りと共にゴジラザウルスは発見され、その体は遠くベーリング海の底へと転送された。だが作戦を終え、現代に戻った寺沢たちはゴジラに代わってもっと強力な怪獣キングギドラが誕生している事を知る。わざとラゴス島に置き去りにしてきた未来人のペット・ドラッドという生物が元となって。そう、全ては、23世紀最大の国力を持つに至った日本を、20世紀の時点で弱めようと企む未来人の仕業だったのだ。空を舞い破壊の限りを尽くすキングギドラを倒すため、政府はベーリング海に眠るゴジラザウルスに核エネルギーを与えゴジラとして生まれ変わらせる。現在の核によって遥かに大きく強大となった新生ゴジラとギドラは北海道・網走の原野で激突。さしものギドラも力尽き、その巨体はオホーツクの海底へと沈んでいった。だが後に残ったゴジラを止める手段はない。首都を目指し南下を続けるゴジラ。正義に目覚めたエミーは、仮死状態のギドラにサイボーグ手術を施すため単身、未来に戻る。やがて新宿にゴジラが出現。人類の万策が尽きたかに思えたその時、空を割り閃光と共にメカキングギドラが現れた！

前作ゴジラVSビオランテより1年をおいて再び始まった平成ゴジラシリーズ。1990年代最初のゴジラ映画である。娯楽指向の強い大森一樹だけあって、ゴジラの設定にまで踏み込んだ大胆なシナリオが話題を呼び、今後のシリーズの基礎となった。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』よろしく過去・現在・未来を縦横無尽に行き交い、二転三転するストーリー。なまじフォーマット化されやすい怪獣映画にこれほどまでの波乱万丈な物語を取り入れた功績は評価されていいだろう。主役の寺沢健一郎には前作でスーパーXのオペレータ役を演じていた豊原功輔、エミー・カノー役に中川安奈を起用。脇を佐々木勝彦、小林昭二、佐原健二、そして土屋嘉男といったベテラン陣が固めていた。また、16年ぶりに伊福部昭がゴジラシリーズの音楽に復帰し、健在ぶりを見せてくれたのも大きな話題であった。

【登場怪獣】ゴジラ／キングギドラ／メカキングギドラ

【クレジット】

監督 大森一樹
製作 田中友幸
プロデューサー 富山省吾
脚本 大森一樹
撮影 関口芳則
特殊効果 渡辺忠昭
美術 酒井賢
デザイン 西川伸司

造型	小林知己		
編集	池田美千子		
音楽監督	伊福部昭		
特技監督	川北紘一		
特技・撮影	江口憲一		
	大根田俊光		
擬斗	宇仁貫三		
特技・美術	大澤哲三		
特技・操演	松本光司		
特技・編集	東島佐枝		
アクション	薩摩剣八郎		
	福田亘		
	破李拳竜		
出演	中川安奈		エミー・カノー（未来人）
	豊原功補		寺沢健一郎（ルポライター）
	小高恵美		三枝美希
	原田貴和子	Harada Kiwako	森村千晶（雑誌ムー編集者）
	小林昭二		土橋龍三（内閣安全保障室）
	上田耕一		池畑益吉
	佐々木勝彦		真崎洋典（生物学者）
	チャック・ウィルソン	Chuck Wilson	ウィルソン（未来人）
	リチャード・バーガー		グレンチコ（未来人）
	ロバート・スコット・フィールド		アンドロイドM11
	西岡徳馬		藤尾猛彦（国立超科学センター所長）
	土屋嘉男		新堂靖明（帝洋コンツェルン会長）
	山村聡	So Yamamura	林田（総理大臣）
	時任三郎		テレビレポーター
	矢追純一		
	ケント・ギルバート	Kent Gilbert	
	ダニエル・カール	Daniel Kahl	
	森末慎二		
	佐原健二		
	黒部進		